

図書館だより

2014年9月2日
第90号
成田高等学校
図書委員会
成田市成田27

9月6日、7日「葉牡丹祭」で
『室伏広治V20写真展』を開催！

学校図書館長 高橋 春樹

三ヶ月ほど前の6月7日(土)、福島県とうほう・みんなのスタジアムを会場に第98回日本陸上選手権大会が開催された。強い雨が降りしきる、あいにくのコンディションとなったこの大会には私が知る限り、成田高校の卒業生4名が出場していた。

大会1日目の女子三段跳びに吉田文代選手(郡山女子大附AC・平成12年卒業)、大会2日目の男子棒高跳びに、澤野大地選手(富士通・平成11年卒業)、やはり大会2日目の同時刻に、男子ハンマー投げに室伏広治選手(ミスノ・平成5年卒業)、3日目の男子砲丸投げに筒井崇広選手(日大・平成24年卒業)がエントリーしていた。

特にこの大会では、澤野選手の通算10勝と、室伏選手の「大会20連覇」が話題となっていた。

吉田文代選手は、成田空港株式会社から移籍し郡山女大付高の講師となり2年目。4本目終了時でトップに立つものの、その後他の選手が記録を次々と上回る…。5本目をパスし、6本目に懸けたが、表彰台には惜しくも2cm届かず4位入賞。

澤野大地選手は、5m31、5m51、5m61とそれぞれ1回の跳躍でクリアしてトップに立ち、同大会3年ぶり10回目の優勝を飾った。

筒井崇広選手は、振るわず第9位の結果。さて、「世界の鉄人」と異名を持つ室伏広治選手は、強い雨を意識して赤いヘアバンドを着用し、1投目71m85、2投目72m42、さらに3投目に73m93を投げ、2位の赤穂弘樹選手(鳥取陸協)に6m以上の大差をつけて優勝、みごと大会20連覇を達成した。自らの日本記録(84m86)には遠く及ばないが、95年に弱冠20歳・中京大学の3年生だった初優勝から、39歳にして前人未踏の20連覇を達成し、常人の域を遥かに超えてしまった。まさに空前絶後!



20連覇達成し金メダルを胸に

この日、競技後のインタビューに次のように語っている。(日本陸連HPより)

「雨は予想されていたので、十分な準備をして臨みました。久しぶりの試合で、楽しんでやれたと思います。福島、東北の方々が、素晴らしい大会をつくってくださって

感謝しています。観客席から届く大きな声援に負けないよう、一所懸命投げようと思ってきました。周りの多くの方々がサポートしてくれて出来たことに心から感謝したいと思います。」

これまでの印象深い試合を挙げるとしたら? 「どれか1つとはいえませんが、20という区切りでもあったという点で、今回が一番大きな意味があったと思います。限界は、自分が決めたところが限界。競技生活を長くすることによって、本当のスポーツの楽しみを知ることができると思っています。」

今後については? 「年齢的にみても、来年どうなるかはわかりませんが、できる限りは頑張りたいと思っています。」

室伏アレクサンダー-広治

1974年静岡生まれ。「アジアの鉄人」こと室伏重信の長男。成田高校を平成5年に卒業。その後中京大学に進学し、父と二人三脚でハンマー投げに打ち込み三度のオリンピックに出場。

身長:187cm 体重:99kg

東京医科歯科大学教授

ミスノ所属

2004年アテネオリンピック金

2011年世界陸上大邱大会金

2012年ロンドンオリンピック銅

などの記録を持つ。

10月には40歳を迎える室伏広治選手。現役アスリートであるばかりか、東京医科大学「スポーツサイエンスセンター」センター長の教授として就任した研究者でもある。そして、東京五輪の組織委員会理事であり、選手の意見を大会運営に反映させるスポーツディレクターにも就任している。この日の大会でも、投擲や跳躍種目の選手が、雨に濡れながら紹介されるのを見た室伏広治選手が、観客席から見やすく、しかも雨に濡れない場所への変更を助言している。長く現役選手を続けていた室伏広治選手らしい目配りと気配りの一端を見せてくれた。

彼が、六年後の東京五輪に選手という立場で関わっているのか憶測することはできないが、「鉄人伝説」を更新し続けて欲しいと多くのファンが願っている。

「室伏広治V20写真展」

学校図書館では、室伏広治選手の日本陸上競技選手権大会20連覇を記念して、写真展を開催！
◆等身大パネルやシューズ・ウェアなども展示予定。

期間：9月6日から12日まで
時間：9時から15時まで

※9月8日は休館

去る7月17日、東京都内で室伏広治選手に面談し、インタビューを行った。

館長「まず、成田高校への入学の経緯は？」
室伏「父（室伏重信）が競技を引退して、ローマの世界選手権大会にテレビ解説者として行ったのですが、そこで、日本陸連の投擲のコーチとして行かれた瀧田詔生先生と知己を得て、非常に意気投合して、親しくローマ観光をした写真が残っています。

父は、進学先について私に強制することはありませんでした。中学時代に陸上を始めていましたが、本格的にやっていたわけではありませんでしたから、競技種目も決まっておらず、高校では本格的にやりたいと思っていました。父が中京大学に勤めていましたし、愛知県内にハンマー投げをやっている学校もありましたので、ハンマー投げ第一入者の父のもとでマンツーマンの指導を受けた方が、競技の上達には早かったのかもしれないから、ある意味それがベストな選択だったのかもしれないですね。愛知に残るか、親元を離れて県外に出るか、選択だったわけです。

父がある時、成田高校を訪ねると、

成田山新勝寺の援助で、超高校級の立派な陸上グラウンド施設を持つこと、それにもまして、礼儀正しい校風が徹底され、全陸上部員が整列のうえ、来訪者一人ひとりに必ず丁寧な挨拶をする。そんな姿を目にして、こんなすごい高校があるんだ！と驚いた話を聞いていました。そんなこともあって、成田高校で瀧田監督のもといろいろなものを吸収し、スポーツマンとして、そして人間として磨かれ成長したいと思い、入学を決意しました。」

※室伏重信：室伏広治の父。ハンマー投げ日本歴代2位の記録を持ち、オリンピック代表4回、アジア大会6回出場（うち5連勝）。現中京大学名誉教授。

※瀧田詔生：昭和36年卒業、日本体育大学、昭和40年から本校教諭・陸上競技部指導者。平成10年物故。

館長「成田高校に入学し、瀧田監督の家に寄宿して陸上部員としての生活はどうでしたか？」

室伏「いやあ、それはもう想像以上に厳しいものでした。正直、大変でした。瀧田詔生監督、小山裕三先生、岡野雄司先生などの指導者スタッフに徹底的にスポーツマンシップを叩き込まれました。しかし、当手を振り返

左から瀧田監督、奥様、山本（同級生）、室伏



※小山裕三：昭和49年卒業、日本大学、昭和54年から平成4年まで本校教諭・陸上競技部指導者。現日本大学教授・日本大学陸上競技部総監督、日本陸連投擲部長。

ると、目標や志を高く持っていたように思います。だからこそ厳しさにも耐えられたのでしょうか。

技術やフォームに関しては、父が毎月一回チェックに来ていましたから問題なかったですね。この時期にアスリートとしてコミュニケーション能力も身につけることが出来たように感じています。」

※岡野雄司：昭和61年卒業、日本大学、平成3年から17年まで本校教諭・陸上競技部指導者。現日本大学講師 指圧治療士。

館長「スポーツディレクターに就任しましたね。どんな仕事ですか？」

室伏「スポーツディレクターとは、2020東京オリンピックにおける競技運営面で、国際、国内28の各競技団体、各国オリンピック委員会、IOCとの調整をするのが仕事です。今後、アスリートの意見を大会運営全般にわたり反映させることを目指します。」

館長「最後に、本校生徒に一言。」

室伏「そうですね。昔から、若いうちの苦労は買ってでもしろって言いますが、今、私はこの言葉は本当だと思っています。成田高校・中学の生徒さん達は、短い期間かもしれませんが、今まさに学んでいること、経験していることが非常に価値を持っています。この時期に頑張ったことが必ず大人になって役に立ちます。私も成田高校で沢山の厳しい事を経験し、それを乗り越えてきました。皆さんも親に感謝し、成長への努力を続けてください！」

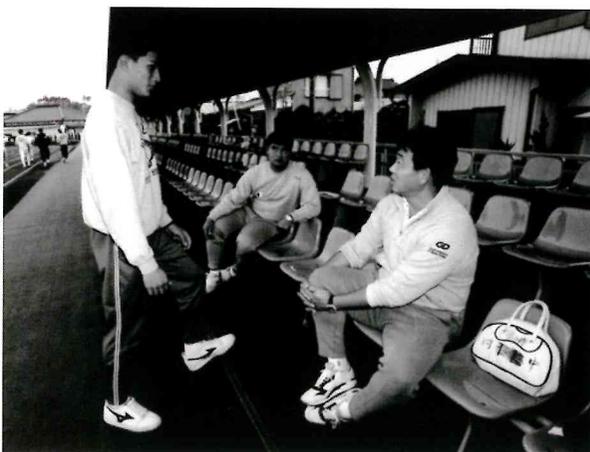
次は、室伏広治選手の高校時代に本校陸上部の指導者であった、小山裕三氏と岡野雄司氏に話を聞いた。

館長「当時、小山さんは陸上部の指導者でしたが、室伏君に接してどんな感想をお持ちですか？」

小山「まあ、それは大変でしたね。というのはね、広治は理屈・理論で納得しないとやらないんだ。たとえば、勉強は何故しなきゃならないのか？こうこうだから勉強は必要なんだと、ちゃんと理論だてて納得させないとだめ。」

スポーツ技術や練習方法でも、この競技で何故この練習メニューをやる必要があるんだ、というのをきちんと説明し、納得しないとやらない。まだ高校一年生で、スポーツのことなんて何も知らないくせに生意気吹かすんです。だから、教師になりたての岡野なんかかね、バンザイさせられましたよ。どうしてこのメニューなんですか？これをするとどんな効果がありますか？私はこの方がいいと思うんですが、なんて自分の疑問や意見をはっきりと言う。だからこちらもね、今みたいにネットで何かをすぐ調べるなんて事が出来

室伏、岡野氏、小山氏（成校グラウンドで）



る時代じゃなかったですからね。私は砲丸投げの選手でしたが、彼のおかげで投擲種目全般のスポーツ理論を勉強させられましたね。その頃は、専門家に話を聞いたり、学校図書館にもつたりしてね、よく調べさせられましたよ。案外それが今の解説の役にも立ってますよ。」

館長 「最初からハンマー投げに絞ってやらせたのですか？」
小山 「当時、お父さんがハンマー投げの第一人者ですから、毎月成田に来て技術面をしっかりとみてましたね。です

から私がやったのは、のびのびと練習させること、しっかり基礎体力を付けさせること、そして何よりも大事だったのは、広治に陸上競技を好きにさせることだったですね。」

本人は当時知らなかった事ですが、お父さんはその頃から広治をオリンピックに三度出すのが夢だ、と言っていました。当時、槍投げで記録を出したけれども、肘や肩に故障を起しやすいう種目なので、だからハンマー投げにもって行って欲しいと。」
館長 「すでにその頃から彼は抜群の身体能力だったと聞きますが？」

小山 「長距離走以外は何をやっても凄かったですよ。ハードルの専門家が来てね、ハードルやらせなさい！必ずオリンピック選手になる。三段跳びの専門家が来ると、これは絶対にオリンピックに行くよ、入賞するよ！って、各種目どれもことごとくそう言われちゃう。」
50 ㍎走で 5 秒 5 をきる、立ち幅跳びで 3 ㍎ 60 を軽く超えちゃう。円盤投げ、槍投げもそんな調子でした。彼が 2 年から 3 年上がる時だったですかね、全日本の春の合宿でね、始めて砲丸投げを一時間半練習したかな、当時のインターハイ・チャン



23 年前、高校チャンピオンの頃

ピオン位の距離を軽く投げちゃう。当時全日本チャンピオンの岡野がね、小山先生、絶対に砲丸だけはやらせないで下さい！私の日本記録が無くなっちゃう、って言ったくらいですよ。ははは。」

館長 「遠方の生徒達は瀧田監督のところまで生活してましたね、そこらへんはどうでした？」

小山 「お父さんが、瀧田監督と信頼関係があって預けたわけですが、それはもう絶対権力者の家に寄宿するんだから、相当のストレスだったでしょう。箸の上げ下ろしから、畳の拭き方、四角い部屋を円く掃くな！って、昔の部屋住み修行と同じですから、躰けも相当厳しかったわけですね。お父さんが、瀧田監督や私の性格をみて、

それこそアメとムチでバランスがとれると思つて成田高校に預けたんでしょかね。」

館長 「当時、岡野さんは教師になって二年目、室伏君をどう見ましたか？」

岡野 「私は、成田高校教員クラブとして現役選手を続けていました。アジア選手権で第3位、これで日本記録を樹立した年でしたが、月刊陸上競技という専門誌の表紙に室伏と二人で掲載されました。本当はね、私一人で表紙を飾るはずでしたが、室伏が高校新記録をだすもんだから、二人で並んで写ることになったのをよく覚えていますよ。忘れられません。」

1991 年には岡野氏とともに「月刊陸上競技」誌の表紙に



館長 「同じアスリートとしてどんな感想を持ちましたか？」

岡野 「私は、小山先生に指導を受けて、こつやれ！ああやれ！と言われたこと

を忠実に守ってやってきました。それでちゃんと記録も伸びましたからでも、室伏は妥協がなくて感性が抜群。岡野先生それは何故？これでは駄目なんですか？って必ず聞いてきますから、指導者として理論的な説明ができないもどかしさを感じました。室伏は、生まれながらの身体能力が備わっていましたから、将来とてつもない選手になるかも…と思いましたが、世界チャンピオンまで昇りつめるとは考えていませんでした。世界を相手に戦い、国内にあっては20連覇ですから、本人の、常人の域を超えた努力の賜物でしょうね。」

小山

「こんなことがありました。非常に強く印象に残っています。広治が中京大学に進学してハンマー投げをお父さんの指導で、マンツーマンでやり始めた大学一年生の時でした。アテネの世界選手権大会の後、イタリアのシシリイ島でユニバーシアードがあって、そこで広治に会ったんですが広治がね、へ小山先生、トップアスリートも試合ではもの凄く緊張してるんじゃない。私以上に緊張してるかも世界で通用するかもしれない。」とそう言ったんです。そして年賀状にへ正

しいことを、キチンと習得して、それをやり続けること、それが将来の結果につながるという事が解かりました。」と書いてありました。世界大会に出るようになって良い刺激を受け、ようし、世界チャンピオンを目指してみよう！って思ってたんでしょね。これは今でもよく覚えてます。成田高校で本格的に陸上を始めた広治が、世界の鉄人にまで成長したことは私たちの誇りです。今後も限界まで挑戦してくれると思っっています、楽しみです。」

(写真協力：(株)陸上競技社)

葉牡丹祭の「室伏広治V20写真展」では、彼の20年間の肉体的変化に注目して頂きたいと思っている。

夏休み中に山梨県甲府市で開催されたインターハイ陸上競技では、後輩部員たちが健闘し、トラック競技で第2位(男子)、総合点第6位の好結果であった。特に、男子4×400mリレーでは、大いに会場を沸かせ、3分10秒71(日本歴代8位)の好タイムで11年ぶりに日本一に振り返り咲いた。



留学体験レポート

一年間のアメリカ留学生活を経て

前図書委員 高校3年E組 村上 理



私は昨年の7月から今年の7月までの一年間、アメリカのウィスコンシン州で留学生として高校生活を経験しました。私のいた町はのどけいといつて、人口千人にも満たないとても小さな村です。春夏はカラッと晴れて、日本にはないような快適な夏を過ごせますが、冬は零下20度にも達する寒さで、雪が降りとても大変な思いもしました。



中央には鹿が見えますか！
高校での学校生活はとても充実していました。四学年に分かれていて、私は最高学

年の「Senior」に籍を置きました。日本の高校のような、必修科目は存在せず、大学のように、クラスを事前にスケジュールに合わせて取るような形となっています。とれる授業も豊富で、数学や、英語、ビジネス、体育、工学、芸術、音楽、社会科学、科学のような分野から、さらにレベルや用途に応じて沢山の授業が用意されています。私は社会科学やビジネスに興味があったので、社会学、精神学、アメリカ史、ウェブデザイン、ビジネス基礎などをとっていました。学校では、定期テストがない代わりに、頻繁に小テストが行われ、宿題、レポートの提出など、日々追われるように、課題をこなしていました。自分が学びたいことを履修していたので、充実感がありました。ビジネスの授業では、架空の企業を作って、どう売り込むかを考えたり、アメリカ史の授業では、過去の出来事についてディスカッションを行ったりして、理解を深めるとともに、過去から教訓を学びます。全ての授業は黒板代わりに、ホワイトボードとプロジェクターを使って行われ、理解を深めるために、映像やウェブサイトも頻繁に利用されたりします。授業の内容を理解することに手いっぱいであった私は、ノートを完全にとることは出来ませんでした。が、「 Moodle」というサイトに授業で使う全部のスライドがあるので、授業後コンピュー

ターやタブレットで予習・復習はいつでもすることが可能でした。

学校は二期制で、9月に始まり、5月に卒業式を迎えました。二期期といっても、3カ月の夏休み以外に長期休暇はあまりなく、あくまで一学期だけで履修するクラスのための、区切りのようなものです。



卒業式には伝統的なこの姿で出席

部活は三季節によって分かれています。秋は、アメリカンフットボールやクロスカントリイ、これは山や森をトラックの代わりに走るスポーツです、冬は、レスリング、バスケットボール、ホッケーと言った、インドア競技が盛んです。多くの州では冬は霧下に達するのもしばしばなので、アウトドア競技は秋と春のみに行われます。春は陸上や野球です。こちらの部活は「Un-

derstanding (フアンドレイジング) というものがシーズンの始めに行われます、これは、部活の運営費を自分達で物売って稼ぐというものです。私も陸上チームにいたときに経験しましたが、不景気な今は、より盛んになっているそうです。私はクロスカントリイと陸上を経験しました。走ることが好きだったので、とても楽しい思い出ができました。チームリレーでは銀メダルを獲得するという初めての経験をしました。

ホストファミリーが合気道の道場をもっていたので、合気道を学んだりもしました。そこで出会ったのは、日本を好きでいてくれている沢山の人達です。様々な違った日本の文化を好む方がいらっしやって、京都や奈良のような、古き良きものを好む人もいれば、アニメーションや漫画などのポップカルチャーを好む方も沢山いらっしやいました。中でも印象的だったのが、セミナーでお邪魔した道場の先生が、成田の太鼓祭りに訪れたことがあり、写真を見せていただきました。遠い異国の地でまさか、成田の写真を見るときは思わず、世界って狭いなと思いました。もう一つ、違う先生で、日本で英語を教えていた先生がいた学校が八千代市であり、そこは私の家から5kmぐらいのところ、縁って本当に不思議なものだとも思います。

私のいた学校は、公立学校にしては、設

備も充実していて、様々なスポーツワールド、ウエイトリフティングジム、エアロバイクセンターなどもあり、休日に無料で開放されます。学校図書館は成田高校の半分ぐらいの大きさで、主に多くの人が公立図書館を使っています。

ダンスパーティーが頻繁に行われ、中でも秋のホームカミング、卒業前のプロムは大ダンスパーティーです。ダンスパーティーでは、タキシード姿の男子が、ドレスを着飾った女子をロマンチックに誘い、踊ります。友人同士でお金を出し合い、まるで映画のように、リムジンを貸し切ってダンスに行く、みたいなおしゃれなことも多いです。

男子はタキシード姿で！



休日の過ごし方は、土曜日はゆっくりリラックスしたり友達と遊びに行きます。アメリカでは16歳で車を運転できるので、よく友達と色々なところにドライブに行ったり、パーティーに出かけたりもしました。アメリカでは多くの人が敬虔なクリスチャンなので、日曜日の午前中は教会に行ったり、カトリックは神父、プロテスタントでは牧師さんのお話を聞いて、聖歌をみんなで歌います。どこか成田山の護摩修行を思い出しました。あちらでは、教会は強い影響力がありますから、学校もキリスト教系も少なくありません。教会は、ただ礼拝のためだけの場ではなく、沢山の社会貢献もしています。

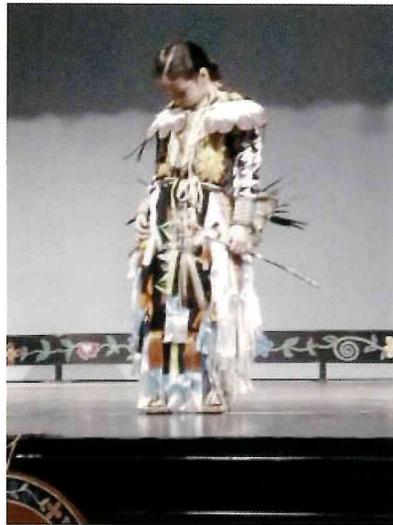


土曜日はリラックス

教育、ご飯の炊き出し、慈善団体への寄付、こういうところも成田山によく似ていて、

どの宗教もその根底にあるものは、やはりそのような慈愛の精神なのだと思います。アメリカという国は「人種のるつぼ」と呼ばれていて、私は沢山の違った人種だけでなく、宗教、考え方に会いました。

ネイティブアメリカンのイベントで伝統を次世代に伝える



なかでも印象的だったのは、ネイティブアメリカンと呼ばれる方々です。先住民であった彼らは半世紀前の公民権運動までは迫害されてきた歴史がありました。今は政府から土地を取り返し、そこでカジノなどのビジネスを始めたり、イベントなどを開くことによって伝統文化を後の世代に紹介しています。言語もほぼ絶滅の危機に瀕していました。最近の学校では外国語の代わりにネイティブアメリカンの言語を教

えたりもして、前よりも改善されています。このようなアクションは日本の文化保全にも通じるものを感じます。

私がアメリカで学んだ最も大きなことは、古代ギリシアのプロタゴラスの言葉「人間は万物の尺度である」とあるように、物事に絶対的に正しい解釈というものはない、ということ。例えば、昨今の領土問題、イデオロギーの違いは、それぞれ解釈の違いがあり、絶対的に正しいものなど存在しません。第二次大戦について、沢山の違った国、アメリカ、ドイツや中国の留学生と議論をすることもありましたが、お互いそれぞれの言い分があり、それがたとえ自分の認識からすれば受け入れがたいものでも、しっかりそれを聞かなければなりませんでした。ですがそこから見えてくる新しい視野・認識というものは非常に私にとって刺激的でした。

あちらで連日、ニュースでシリア内戦やISISの台頭をみて、中東情勢に興味を持ちました。私は、この留学の経験を活かしつつ、もっと勉強をして、現在の戦争や内乱で再建設の中東で復興の支援をしたいと思っています。

(村上記)

《図書委員・前期役員お疲れ様でした!》

図書委員会の前期役員は左記の通り。
これらの役員が中心となって学校図書館の円滑な運営と管理に努力していただいた。心から敬意を表したい。尚、9月中に役員改選が行われ後期の役員が決定する予定。

- ★図書委員長：高3H 白川 尚樹
- ★〃副委員長：高3C 櫻井 新
- ★〃副委員長：高3H 相馬 寛生
- ★〃副委員長：高2H 山本 浩貴
- ★活動班
班長：高3C 櫻井 新
副班長：高2H 山本 浩貴
- ★管理班A
班長：高3H 白川 尚樹
副班長：高2D 平山 滉大
- ★管理班B
班長：高3B 鈴木 将也
副班長：高2I 高島 駿介
- ★管理班C
班長：高3H 相馬 寛生
副班長：高2A 笹川 義樹
- ★管理班D
班長：高3G 浪川 澄
副班長：高2G 大木 佑夏
- ★管理班E
班長：高3A 高柳 徹生
副班長：高2C 岩崎 真由



平成25年度年間貸出冊数(昨年度/年間)	
中学生利用冊数	7,959冊
高校生利用冊数	6,886冊
職員等利用冊数	15,480冊
合計	6,005冊
平成26年度1学期貸出冊数(7月末現在)	
中学生利用冊数	3,458冊
高校生利用冊数	2,335冊
職員等利用冊数	6,212冊
合計	6,005冊

館長が薦めるの1冊!

『本当の「私」がわかる自分の心理学』

齊藤勇著

請求記号140サ

自分のこと、わかりますか? 自分自身のこと、解かっている人は、意外と少ないもの。自分の本当の性格は? 他人からはどう

見られているのか? など心理学で自分を知らねば、様々な悩みが解決する!



学校図書館の発行物

- 1、『Bibliothek』
新着図書の中から、お薦めの図書を紹介する。
◆毎週発行(各教室掲示、図書館掲示)
- 2、『月間利用統計』
各クラスの貸出状況を報告する。
◆毎月発行(各教室掲示)
- 3、『図書館だより』
学校図書館が催す「企画展」での発表内容の特集する。学校HPにも掲載し、バックナンバーを閲覧いただくことができる。
◆毎年9月発行(全校に配布)